

Physical gestures may have different meanings / in different cultures, /
and misunderstanding these signals can sometimes be embarrassing.
S (動名詞) V C

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

1. Physical gestures mean the same thing in every culture. ()
2. In Japan it is usual to use the index finger to count people. ()
3. One of the students said that it was unusual to count people on fingers in his country. ()

覚えておきたい表現

感情を表す他動詞の現在分詞「人を…させるような」

ℓ.2: misunderstanding these signals can sometimes be **embarrassing** 「こうした合図を誤解することは、時としてやっかいなことになりかねない」
 ・embarrassing 「やっかいな; 人を困惑させるような」: 他動詞 embarrass は「(人) を困らせる; (人) にばつの悪い思いをさせる」という意味。このような、感情を表す他動詞の現在分詞やそれからできた形容詞は「人を…させるような」という使役的な意味を持っている。
 Ex. The game was very **exciting**. 「試合は非常にわくわくする (=させる) ものだった。」
 ・can do 「…する可能性がある; …するおそれがある」
 Ex. Buckwheat **can cause** an allergic reaction. 「ソバ粉はアレルギー反応を引き起こすおそれがある。」

関係代名詞 which の非制限用法「そして〔だが; なぜなら〕そのことは…」

ℓ.5: I counted them with the index finger, **which** is common in Japan. 「私は人差し指で彼らを数えたが、これは日本では普通のことである。」
 ・カンマ (,) which: この関係代名詞 which は I counted them with the index finger という前の文全体を受けて「そして〔だが; なぜなら〕そのことは…」と意味をつけ加えている。この文のようなカンマ (,) which の用法は、関係代名詞の非制限用法と呼ばれる。この時、関係代名詞は直前の名詞を指すばかりではなく、前の文全体や、またはその一部を指すこともある。
 Ex. John said nothing, **which** made her angrier. 「ジョンは何も言わなかった。そしてそのことが彼女をいっそう怒らせた。」
 ・with ~ 「～を使って」: with は手段を表す前置詞。
 Ex. Don't handle mercury **with** your bare hand. 「水銀を素手で扱ってはいけません。」

感情を表す他動詞の過去分詞「…させられた; …した」

ℓ.6: one of them became quiet and looked **puzzled** 「学生の1人が黙ってしまい、困惑しているように見えた」
 ・looked puzzled 「困惑しているように見えた」: puzzle は「(人) を困らせる; (人) を当惑させる」という動詞。過去分詞の場合は「…させられた」という受動的な意味になるが、「…する」と訳した方がよい。したがって、過去分詞 puzzled は「困らされて→困って」という意味になる。また、「感情を表す他動詞の現在分詞」の項で扱った embarrass の場合、過去分詞 embarrassed は「当惑させられる→当惑する」と訳す。このように、感情を表す他動詞はその人自身の気持ちを述べる場合には過去分詞になる。
 Ex. She looked **interested** in the signboard. 「彼女は看板に興味を持った様子だった。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

- ・身ぶりの意味は文化によって違う
→ 身ぶりの意味を取り違えると、困ったことになる。
- ↓
- ・具体例: 著者の経験
・著者は外国人学生の一団を引率していた時、指で生徒の人数を数えた。
→ これは日本ではよくやること。
- ↓
- ◆ ℓ.6 **But** 「しかし: 逆接」
・ある生徒はとまどった。
→ 彼の国では、指で数えるのはブタだけだった。

背景知識

●しぐさと社会

しぐさや身ぶり手ぶりは、周囲の人の模倣として幼児期を通じて無意識に学習されるため、社会の慣行になるのだと言われる。そのため、自分が当たり前だと思っているしぐさは、国や文化が異なると、別の意味でとらえられてしまうことに人は当惑する。「○○文化圏」と括ってしまいがちなある地理的・文化的圏内ですら、個々の国の社会の成り立ちには違いがある。したがって、ある国である一定の意味で通用するしぐさが、別の国ではまったく異なる意味となることが起こっている。例えば、親指の先と人差し指の先とをくっつけて示すオーケーサインは、ヨーロッパの大半の人々にとっては「承認」の意味を持つとされる。これはフランスでも同じだが、そのフランスの一部の地域では「無価値」か「ゼロ」を意味してしまう。1つの国の中でも、地域によって意味が違うという好例である。

また、しぐさの違いは、時代によって変わることもある。現代のヨーロッパでは、フランス人は北欧やイギリスの人に比べると、身ぶり手ぶりを多用すると考えられている。しかし、16世紀まではしぐさの多用は下品だと見なされ、ほとんど使用されなかった。フランス人が身ぶり手ぶりを広く行うようになったのは、その後19世紀初頭まで待つこととなった。

【深めたい人に】: ピーター・コレット著、高橋健次訳『ヨーロッパ人の奇妙なしぐさ』(草思社、1996年)